

令和4年度事業報告書

公益財団法人名古屋みなと振興財団

I 総括事項

公益財団法人名古屋みなと振興財団は、名古屋港における海事思想の高揚と海洋文化の普及並びにガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する各種事業を実施した。

令和4年度は、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の徹底を図りつつ、適切な管理運営を行った。また、新型コロナウイルス感染症による入館料収入の減収を受けて、昨年度と同様に、飼育生物の餌代の一部を募るクラウドファンディングの実施、生き物たちの暮らしを応援していただく募金「ガチャ de 寄付」に加え、クレジットカード決済による「ポチっと寄付」などの収入確保に取り組んだ。

なお、今年度末で指定期間が満了する当財団が管理する名古屋港水族館（指定期間：平成26年度～令和4年度の9年）、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設（指定期間：平成30年度～令和4年度の5年）について、令和4年11月定例名古屋港管理組合議会において、令和5年度以降も引き続き指定管理者に選定された（名古屋港水族館（指定期間：令和5年度～令和14年度の10年）、名古屋港ポートビル、南極観測船ふじ及びガーデンふ頭臨港緑園の各施設（指定期間：令和5年度～令和9年度の5年））。

1 公益目的事業

(1) 海事思想及び海洋文化の普及に関する事業

① 体験プログラムを通じた海洋文化の普及（資料1）

小中学生（大人含む）若しくは小学生とその家族（保護者）を対象とした水族館内でのスクール、講演会など主に水生生物に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 水族館ではスクールとして、例年「君もドリトル先生になれるか！」「もっと知りたい！ダーウィン教室」の2種を実施している。前者は、小学生とその家族を対象にバックヤード見学を中心とするもので、今年度も参加人数を制限するなど十分な新型コロナウイルス感染症対策を行った上で開催した（全16回）。後者は、生徒のみで作業や実験・観察を行うもので、コロナ禍での開催を中止していたが、親子参加へと変更し感染症対策を行った上で3年ぶりに再開した（全8回）。また、閉館後の夜間の生物の様子を観察する「ナイトウォッチング」も3年ぶりに再開した（全6回）。

イ 名古屋市及び全国14都道府県で採用している小学4年生の国語の教科書（ひろがる言葉 小学国語 4下：教育出版株式会社）に、当館のウミガメに関する取組（飼育、放流調査研究等）が紹介されていることから、今年度も市内児童向けにウミガメレクチャーを実施（オンライン開催含め参加24件1,508名）した。このほかに、執筆者自身が教員向けにオンラインでレクチャーを行う「教員向けオンライン講演会」も実施した。また、今年度は名古屋市の教員だけでなく、同じ教科書を採用している全国全ての教育委員会に案内を送付し、北海道から長崎県まで全国各地から9校の参加があった。

ウ 特別展は、昨年度から引き続き令和4年4月10日まで、海洋環境をテーマにした「豊かな海をいつまでも～旅する水とめぐる海洋ゴミのいま～」を開催し、令和4年10月8日から令和5年2月26日まで開館30周年記念事業として、これまで実施してきた特別展を紹介する「開館30周年特別展 ～見たい！見せたい！！あの特別展をもう一度～」を開催するとともに、開館当初より飼育している個体を紹介するパネル展「今なお健在！！名古屋港水族館のスタメンたち」も開催した。また、令和4年8月1日から9月25日まで藤前干潟のラムサール条約登録20周年を記念して藤前干潟ふれあい事業実行委員会と共催で「出張！藤前干潟@名古屋港水族館！」を開催した。更に、“アメリカザリガニ”、“土用のウナギ”、“ハロウィン”、“クリスマス”、“正月・干支”、“バレンタインデー・ホワイトデー”、“家康の浴衣とカニ”、“春（海辺の稚魚）”など時機を捉えた各種展示を行った。

エ 令和2年度から開始したインターネットによるオンラインレクチャーを今年度も積極的に開催し、離島の小学校を始め当館への来館が困難な地域の学校や来館日のレクチャー予約が埋まっており受講できない学校が事前学習として受講した。オンラインレクチャー及び館内外でのレクチャーや前述のウミガメレクチャーも合わせると1年間のレクチャー類の総実績は137件7,824名となり過去最高となった。

オ 南館3階の常設展示室「エコ・アクアリウム～海の未来を考えよう！～」と連携し、環境教育やSDGs活動に取り組む関係諸機関との連携に努めた（例：名古屋市環境局：エコパルなごやのワークショップ開催やSDGs街（マーチ）への協力など）。

② 機関紙等による情報提供（資料2）

ア 水族館機関紙「さかなかな」を年4回発行した。また、学習教材「かんさつノート」は、生物状況に応じて改訂し、来館した小中学生の希望者に配布した。特に教育旅行で訪れた小中学校の団体には企業協賛で増刷した簡易版を提供し、教育普及に活用するとともに、今年度は新たに中学生向けの「環境ノート」を制作した。

イ 生物情報紙「新着！海の生き物レター」は、年5回発行し、当館で繁殖したアオウミガメのスペインへの搬出や、当館では11年ぶりとなるブルーガの妊娠等の話題を来館者に対して提供した。

③ 体験プログラムを通じた海事思想の普及（資料3）

広く一般を対象とし、海事に関する知識を深めるため、次の各事業を実施した。

ア 「帆船模型展」「ボトルシップ展」「ボトルシップ体験コーナー」「南極教室」「南極観測船ふじでの星空観察会」「工作教室（3D立体カード工作教室及びペーパークラフト教室）」等の事業を実施した。

イ 親しまれる港づくりの一環として、元旦に実施予定であったポートビル展望室から初日の出を眺めるイベント「港から始まる2023」は、新型コロナウイルス

ルス感染症感染拡大防止のため中止した。

ウ 南極観測船ふじで学芸員による特別ガイドツアー「たっぷり語る 南極観測船ふじと南極観測の話」を実施した。

エ 当施設の SNS 媒体としてフェイスブック、インスタグラムを活用し、海事思想啓蒙普及を中心に各施設の情報発信の活性化に努めた。フォロワー数は、フェイスブック 534 人、インスタグラム 271 人となった。

オ ポートビル展望室、海洋博物館、南極観測船ふじの 3 施設について、各個人の持つ SNS（フェイスブック、インスタグラム、ツイッター）で情報発信してもらうことを条件に 3 施設の無料入場券をプレゼントする「SNS で魅力発信 #名古屋港」を実施し、認知度向上を図った。

④ 学生の職場訪問の受入れ（資料 1）

ア 学生を対象とした職場訪問・体験指導などを受け入れ、水族館及び海洋博物館等での体験プログラムや解説を実施し、また、学校団体へのレクチャーを実施することにより、参加者を通じて一般市民へ海洋文化及び海事思想の普及を図る事業を今年度も実施した。

イ 海洋博物館では、大学の学芸員課程を履修している学生の博物館実習を、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施した。

ウ 愛知大学にて「ミュージアム展示論」の非常勤講師として講義を行った。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、大学側の方針によりオンラインにて授業を実施した。

⑤ ボランティアの育成、活用（資料 4）

ボランティアを育成、活用することにより、当該ボランティアスタッフ及び来館者へ海洋文化及び海事思想の普及を図った。

ア 水族館のボランティア活動は、登録者数 176 名で実施した。例年は館内各所でスポットガイド的な解説業務やスクールの補助活動、朗読会や工作会などを行っていたが、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、昨年度まではタッチタンクでの解説のみに限定し活動していた。今年度は、これに加え、ペンギンの解説とウミガメの解説を再開した。年間活動延べ人数は 486 人、活動延べ時間は 703 時間 15 分であった。

イ 南極観測船ふじのボランティアは、解説ボランティア（10 名）とメンテナンスボランティア（1 名）、海洋博物館は、解説ボランティア（2 名）とペーパークラフト工作教室指導員ボランティア（1 名）の登録がある。新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、団体向けの南極観測船ふじの解説は昨年度に引き続き中止しているが、南極観測船ふじは、年間活動延べ人数 77 人、活動延べ時間 149 時間 14 分、海洋博物館は、年間活動延べ人数 18 人、活動延べ時間 40 時間 10 分であった。

⑥ 研究会・ゼミナール等の開催（資料 3 及び 5）

ア 共同研究講演会は、水族館とも共同研究を行っている三重大学大学院生物資源学研究科の宮崎多恵子准教授を招聘し、「採る・運ぶ・飼う・研究するー大学と水族館による共同研究のリアル 巨大アオリイカ「レッドモンスター」の飼育」（参加者 105 名）を実施した。

イ 名古屋港を職場とする方々を対象に、各界で活躍中の諸氏を講師に招き、港湾行政や海運の動向、変わりゆく港の役割などを幅広く学んでいただく「名古屋港港湾ゼミナール」（参加者 85 名 27 社）を実施した。

⑦ 指定管理施設（水族館）を活用した海洋生物の展示等（資料 5）

海洋生物の展示にあたってはテーマに沿った計画を策定し、生物の健康と飼育環境管理を適正に行い、生物の特性を引き出す展示を行うとともに、飼育担当者や解説ボランティア等による解説等を行った。なお、昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、イベント及び解説活動は制限して実施した。

ア イルカパフォーマンス、シャチの公開トレーニングは新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、ゴールデンウィーク及び夏休み期間中は、それぞれのイベント時間を短縮しながら実施回数を増やし、来館者の密状態の回避に努めた。

イ 新型コロナウイルス感染症対策として非接触型に改良していた体験型の展示は、学習効果の向上を図るため、一部を接触型に変更した。

ウ シャチ「ステラ」「リン」「アース」の 3 頭の展示を継続し、併せて公開トレーニングをメインプールにおいて実施した。「リン」と「アース」が広いプールを活発に泳ぎ回りジャンプする姿や観覧席の直ぐ目の前に上陸する姿は人気を集めている。11 月 13 日に「リン」は 10 歳を迎え、体長が 5.0m、体重が 1.8 トンを超えるなど順調に成長し、周期的に排卵が継続している。「ステラ」の排卵も継続しているため、オスの「アース」との分離飼育を適時実施した。10 月 13 日に 14 歳となった「アース」は体長が 5.9m、体重が 3.0 トンを超え、飼育下で日本最大のシャチとなっている。背鰭・胸鰭・尾鰭の各鰭が大きくなり、オスの迫力が感じられる体形に成長している。

エ バンドウイルカの繁殖については、令和 2 年 9 月にかごしま水族館と共同で同水族館の飼育個体の精液を輸送し、当館の「ゼロ」に人工授精を行い、令和 3 年 10 月にオスの「レイ」が誕生した。「レイ」の生育は順調で、飼育員に体をなでさせる姿が愛らしく、来館者の人気を集めている。「ソラ（6 歳オス）」「ユウ（9 歳メス）」は親離れし、単独でパフォーマンスに参加できしており、「ハル（4 歳オス）」は親の「ルル」と同時にではあるが、パフォーマンスに参加できている。また、腰部に湾曲的症狀がある「ハッピー（5 歳メス）」は、母親の「ウィニー」と一緒に展示プールで飼育を継続しており、「ゼロ」の仔「レイ」のよい遊び相手になっている。

オ 平成 21 年に誕生したカマイルカ「アイ」は 12 歳を迎え、イルカパフォーマンスに継続的に参加している。ジャンプで 3 回ひねりを入れる種目「垂直

バレルロール」をイルカパフォーマンスで公開し、引き続き好評を得ている。バンドウイルカとの交雑を避けるため単独飼育を実施していた「ニック（オス）」を、ブリーディングローンで令和3年4月に越前松島水族館へ貸し出ししている。

カ 平成19年7月25日に誕生したブルーガ「ナナ」、平成24年8月2日に誕生した「ミライ」は、共に順調に成長し、それぞれ7月と8月に15歳と10歳を迎えた。令和3年3月28日より再開した「ブルーガ公開トレーニング」は観覧スペースが狭いことから、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため平日に1日1回の実施としていたが、12月1日より1日2回へ回数を増やした。なお、ブルーガの生態を更に分かりやすく紹介する目的で実施しているイベント「ブルーガの不思議な魚の食べ方」は中止した。

キ 「黒潮大水槽」で実施するイベント「マイワシのトルネード」は、お客様同士の間隔を空け、CO2濃度の測定、換気循環の改善に取り組み、照明と音楽を時節ごとに変更し、来館者の好評を得た。

ク 公式ホームページでは、トピックスの頻繁な更新、飼育員が書き上げる「スタッフブログ」など最新情報の発信に努め、今年度のホームページアクセス件数は1,301万件（昨年度1,045万件）となった。また、フェイスブック、インスタグラムなどのSNSへの投稿にも努め、フェイスブックのフォロワー数は36,742人（昨年度39,740人）、インスタグラムのフォロワー数は76,848人（昨年度68,278人）となった。

ケ マスメディアに対しては、話題性ある情報提供ができるよう積極的なニュースリリース及び取材対応に努め、66件のニュースリリース（昨年度55件）と229件の取材対応（昨年度535件）を行い、多くのマスメディアに取り上げられた。

コ 夏期間、年末・年始、春休みは、休館日に臨時営業し、集客に努めた。また、ゴールデンウィークやお盆等の繁忙期には、新型コロナウイルス感染症対策のため、事前予約制の導入や電子チケットの告知を積極的に行った。また、ゴールデンウィーク及び夏休み期間には夜間営業とともに「夜間割引」を行い、今年度の入館者数は2,063,477人（昨年度比156.7%）となった。

⑧ 指定管理施設（海洋博物館・南極観測船ふじ等）を活用した海事に関する展示等（資料3及び7）

海洋博物館及び南極観測船ふじにおいて所蔵している海事に関する資料を展示公開することにより、海事思想にふれあう場を提供し、来館者への海事思想普及を促した。

ア 企画展として開催した「名古屋海洋博物館のお宝展2022」では、普段展示していない収蔵資料の中から「動物」をテーマとした資料を展示し、開催期間中は61,243人の人出で賑わった。

イ 特別展として「南極に渡った動物たちとリアル謎解きゲーム ～子猫のたけしと謎めいた手紙～」を開催し、開催期間中は25,291人（南極観測船ふじ）、

20,174人（海洋博物館）、21,782人（展望室）の人出で賑わった。

ウ ポートビル 2 階においては、回廊ギャラリーを一般市民に展示会場として開放し、無料休憩施設であるポートハウスにおいては、しおかぜコンサートを実施した。回廊ギャラリーは 11 回、しおかぜコンサート等は 92 回の利用があった。

エ 南極観測船ふじの学芸員が、令和 4 年 11 月 3 日から令和 5 年 3 月 22 日までの 140 日間、第 64 次南極地域観測隊（夏隊）に広報隊員として参加した。

⑨ 海洋生物等の調査研究（資料 5）

海洋生物等の自家採集及び国内外の関係機関と連携して生物収集を行うほか、血統の登録管理や他園館との生物の交換又は貸借の調整を行うとともに、海洋生物等の飼育研究及び希少生物の飼育繁殖研究、フィールド調査、保護活動等の調査研究活動を実施した。

ア 今年度の繁殖については、ペンギン類がジェンツーペンギン 2 個体、ヒゲペンギン 6 個体の計 8 個体であった。

イ 野生動物の教育的展示と種の保存事業の促進を目的に、学術交流協定書を締結している京都大学野生動物研究センター、京都大学ヒト行動進化研究センター、岐阜大学応用生物科学部、三重大学大学院生物資源学研究科と共同研究を実施した。また、近畿大学農学部、信州大学繊維学部、東海大学海洋学部、東海大学生物学部、岩手大学農学部、東邦大学理学部、神奈川大学理学部、金沢大学環日本海域環境研究センター、高知大学総合研究センター、名城大学農学部、名古屋工業大学大学院工学研究科、岡山理科大学生物地球学部、東北大学学際科学フロンティア研究所新領域創成研究部、京都大学農学研究科、常磐大学人間科学部、東京海洋大学学術研究院、藤田医科大学医学部とも共同研究を実施した。

ウ 平成 23 年 8 月に開始した名古屋港内のスナメリの出現頻度調査は、一時中断していたが、京都大学農学研究科及び東海大学海洋学部の協力のもと、平成 28 年度から再開し、共同研究「名古屋港におけるスナメリの周年変動」を継続実施している。令和 3 年 11 月からは、名古屋 ECO 動物海洋専門学校との産学協同教育に関する協定に基づく事業として、同校からの調査員の派遣を受け、ポートビル展望室からのスナメリの定期観測を実施している。

エ 学術交流協定を締結している岐阜大学応用生物科学部と三重大学大学院生物資源学研究科などから、学芸員課程を履修している学生の博物館実習を受け入れ、新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施した。

オ 対面形式で再開された日本動物園水族館協会、日本水族館協会が主催する各研究会を始め、オンライン形式で実施されたものも含め各種学会に参加し、研究発表を行った。

（2）ガーデンふ頭における賑わいの機会と場を提供する事業

① 名古屋港観光施設協議会の運営事業を始めとした観光振興事業（資料 6）

ガーデンふ頭地区を中心とした観光施設等が一体的に協力して相互の情報交換や連携を図り、名古屋港の観光情報を広く提供するため、ガーデンふ頭地区観光施設で組織された「名古屋港観光施設協議会」の事務局を務め、名古屋港の観光客誘致に向けた観光推進 PR、誘致営業・宣伝事業等を行うとともに、当財団単独事業としても各種 PR を行った。

コロナ禍の中、修学旅行等の行き先を変更した学校が多かったが、従来の行き先に戻している学校があることから、今後も来館を促すため、関西地方や長野県などへの営業活動を行い、名古屋港の魅力を発信するとともに情報収集に努めた。

学習旅行として来館された団体や、事前の下見で来訪された教員・旅行社の担当者に対して、ペンギン羽根カード、団体向けかんさつノートなどを進呈して、今後の学校団体誘致及び情報収集に努めた。加えて、名古屋を始めとする近隣地域のホテル・旅館に「名古屋港水族館パートナーシップホテル」として登録していただき、ニュースリリースなど、ガーデンふ頭諸施設の情報、割引券及び案内パンフレット等を提供し、積極的な誘客に努めた。

② 情報誌の発行

名古屋港の観光施設の情報を掲載した無料情報誌（「ゴーゴー名古屋港（名古屋港ガーデンふ頭ガイドマップ）」等）を、県内外の各所に配布することにより、名古屋港の観光情報を発信し、来港者の増加を図った。

③ 各種観光団体及び市内交通機関との連携を図る事業

県内の観光関係団体に加入し、県内の観光施設との連携及び情報の共有化を図るとともに、名古屋市交通局と連携し、市営交通機関利用者に対して、当財団管理施設の入場料の割引を行い、来港者の増加を図り、この地域の活性化に努めた。また、ガーデンふ頭と金城ふ頭の間を運行している水上バス利用者に対して当財団の施設入場料の割引を行い、名古屋港内の回遊性を高め、観光機能の向上を図った。

④ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）を活用したイベントの開催（資料 7）

新型コロナウイルス感染症感染拡大防止のため、感染症対策を行った上で、ガーデンふ頭地区におけるイベントの実施、誘致を通じ、港に賑わいを創出し、親しまれる港づくりを推進した。

ア ガーデンふ頭臨港緑園においては、5 月に「名港水上芸術花火 2022」、12 月に「名古屋港 Christmas Illumination 2022」「ISOGAI 花火劇場 in 名古屋港」が開催され、県外も含め多くの来港者で賑わった。

イ ジェティ広場においては、ジェティテナント会の販売促進事業として、同広場を活用した集客イベントを実施し、来港者へのサービス向上につなげた。

ウ 11月に開催した「名古屋港開港祭フレンドリーポート2022」や正月3日間開

催した「新春みなとカーニバル 2023」の事務局を務め、賑わいを創出するとともに名古屋港の PR や集客に努め、県外も含めて、多くの来港者で賑わった。

⑤ 指定管理施設（ガーデンふ頭臨港緑園・ジェティ）において賑わいの場を提供する事業

ガーデンふ頭臨港緑園及びジェティの運営を通じ、ガーデンふ頭における賑わいの場を提供した。

ア ガーデンふ頭臨港緑園は、緑地維持業務、花壇整備等の施工により、緑豊かで快適な環境づくりの推進に努めた。また、園内諸施設について、本来の美しい景観を甦らせるよう施設補修を実施した。

イ ジェティにおいては、新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、飲食、物販のスペースを含めた休憩施設としての機能を生かし、水族館を支援するとともに、親しまれる港としての名古屋港の発展に寄与した。

2 公益目的事業以外の事業

（1）管理運営する施設の利便性を向上させる事業

ミュージアムショップ、レストラン、売店及び自動販売機を運営することにより、公益目的事業の一助とした。

また、平成 26 年 2 月より発足し、生物の保護、繁殖研究等の役割の更なる向上に貢献している名古屋港水族館法人サポーター制度の会員数は、今年度末には 155 社、250 口となった。

（2）船員宿泊施設の運営事業（資料 8）

平成 25 年 10 月より、船員宿泊施設である名古屋船員会館（ハーバーロッジ なごや）の運営を行っている。新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、船員はもとより来港者の宿泊を促し、観光事業の振興の一助とした。

3 その他

新型コロナウイルス感染症感染拡大による入館者数の減少を受けて、今年度も引き続き、収入確保に取り組むとともに、企業や団体などの相互誘致、知名度アップなどの目的でイベントを実施した（資料 9）。

（1）寄付等の受入れ

① クラウドファンディング（9/28～10/30）

広く一般の方に支援を募るためクラウドファンディングを実施した。今年度は、当財団が原料（エンペラーペンギンの羽根とダウン）を供給し、協力会社が返礼品の制作、配送作業をそれぞれ分担して行った。

② ガチャ de 寄付

令和 2 年度に開始した生き物たちの暮らしを応援していただく募金「ガチャ de 寄付」は、水族館インフォメーション付近にカプセルステーションを置き、

1回 500 円の寄付を募って、生き物たちの餌代の一部に充当した。

③ ポチっと寄付

「コロナ禍の中、来館は難しいが寄付をしたい」との声を多くいただき、昨年度に開始したオンライン決済による返礼品のない寄付を引き続き受け付けた。寄付金は生き物の餌代の一部に充当した。

④ 名古屋市ふるさと寄附金（ふるさと納税）

昨年度に開始した名古屋市のふるさと納税（大人券 1 枚、大人券 2 枚、大人+小中券、年間パスポート（大人）、4 施設共通券（大人）、大人券+御朱印帳の 6 種類を返礼品とする寄付）を引き続き受け付けた。

（2）オリジナル物品等の販売

① 魚朱印の販売

令和 2 年度に開始した水族館版御朱印「魚朱印」（1 枚 300 円）の販売を継続し、生き物たちの誕生日などの記念日等には、オリジナル手作りスタンプを押印した魚朱印を販売した。

② 御朱印帳の販売

令和 2 年度に開始した名古屋港水族館オリジナル御朱印帳（1 冊 2,500 円）の販売を継続した。

③ オリジナル LINE スタンプの販売

令和 2 年度に開始した水族館の認知度や海洋生物への親近感の向上を目的とした LINE スタンプを発売した（1 セット 120 円若しくは 50 LINE コイン）。

④ 水族館オリジナル切手シートの販売

開館 30 周年を記念し、水族館オリジナル切手シート（84 円×5 枚、300 シート、販売価格 1,000 円）を販売した。7 月 18 日に発売し、10 月中に全て販売を完了した。

⑤ オリジナル写真集の販売

開館 30 周年を記念し、これまでに職員が撮影した生物などの写真の中から厳選した 330 枚が載った「名古屋港水族館写真集（A4 横版、全 138 ページ）」を制作し、名古屋市内の図書館、名古屋市を始めとする 5 市村の小学校（294 校）に寄贈するとともに、水族館のミュージアムショップで販売した。なお、写真の選定と構成は名古屋学院大学の学生に担当してもらった。

⑥ 水族館漫画の販売

開館 30 周年を記念し、水族館漫画（水族館つくろう物語）を水族館のミュー

ジウムショップで販売した。

(3) イベントの実施

① 名古屋港水族館開館 30 周年

令和 4 年 10 月 29 日に開館 30 周年を迎えたことから、関連するイベントを行った。

ア 9 月 20 日に、これまで飼育してきた全ての生き物たちに感謝の気持ちをささげるとともに、亡くなった生き物たちへ慰霊の気持ちを込め「いのちと共に 未来へつなぐいのりのセレモニー」を来館者とともに実施した。

イ 10 月 29 日、30 日に北館メインプールの大型映像装置を使用し、名古屋港水族館の 30 年を写真で振り返るとともに、30 周年記念グッズの抽選会を行った。

ウ 南館ホワイエでは開館以来の水族館のトピックスを時系列に沿って紹介する大型パネル（縦 2.4m×横 12m）を設置するとともに歴代のポスターを展示した「名古屋港水族館 30 年のあゆみ」を開催した。

エ 水族館の入館口への動線上にある柱や連絡通路にフラッグ及び南館アトリウム天井から吊り下げた大型シートなどに開館 30 周年のロゴが入ったデザインを装飾し、開館 30 周年を盛り上げた。

② 水族館 de モーニング

過去に実施した「お泊り水族館」に代わるものとして、早朝の開館前の水族館を見ていただき、南館のフードコート「トータス」で朝食を提供する特別イベントを行った（7 月 30 日、8 月 21 日、8 月 28 日）。

③ コミックマーケット 101

関東地方での水族館や南極観測船ふじの知名度向上を目的として、ふじパークラフト・生き物レター集・水族館漫画（水族館つくろう物語）・水族館オリジナル写真集・ミュージアムショップの商品の販売、ガチャガチャを使った寄付の受付(返礼品：ペンギンの羽根など)、サンプリングバッグ・水族館割引券・リーフレット・卓上カレンダー・付箋等の配布を行った。

④ 金山総合駅で名古屋港 PR 活動（12 月 8 日～10 日）

名古屋港管理組合と合同で金山駅利用者に対して、ガチャ de 寄付の設置や水族館動画の送付などで名古屋港及び水族館を PR した。